

Windows プログラミング

第 8 回

レガシー機能のライブラリ-その2-

こだか かおる
KODAKA, Kaoru

はじめに

世間はPDC (Microsoft Professional Developers Conference) のインパクトを受け、すっかりWindows Vista、C# 3.0、そしてVisual Basic 9.0のほうに興味が移ってしまったかもしれません。こ

の連載でも、LINQやWPF (Windows Presentation Foundation) などについて取り上げたいところですが、残念ながら目前に迫ったVisual Studio 2005、.NET Framework 2.0を優先させることにします。

今回は、前回から引き続き、レガシー機能関連のライブラリを紹介していきます。非常に地味な話題を進めることとなりますが、少しの間、我慢して読んでみてください。地味な話題ではあるものの、アプリケーション開発の観点からすれば、結構面白い機能だと思います。

について、「ある人は利用できて、別の人は利用できない」「管理者は書き込みができるが、それ以外の人は読み取りしかできない」といった制御を行なうことを意味します。

このような機能がなければ、誰もがファイルなどのすべてのリソースを好きにいじれてしまうからです。きちんとアクセス権を管理していないコンピュータ、ネットワークを見かけることもたびたびあります。性善説に則った考え方では、そのような状態でもよいのでしょうか？ この問いに対する答えは、「No!」です。「うちのネットワークには、そんな悪いことをする人はいませんから」というのは、言い訳にはなりません。たとえ悪意を持たないユーザーであっても、システムに欠かすことのできない必要な設定/情報を操作(たとえば削除)できてしまうということが問題なのです。

もし、あなたのまわりにそのような状態のまま放置されている環境があったら、今すぐに改善を検討してください。「誰かが重要なファイルを削除して

Level

1 2 3 4 5

Technology Tools

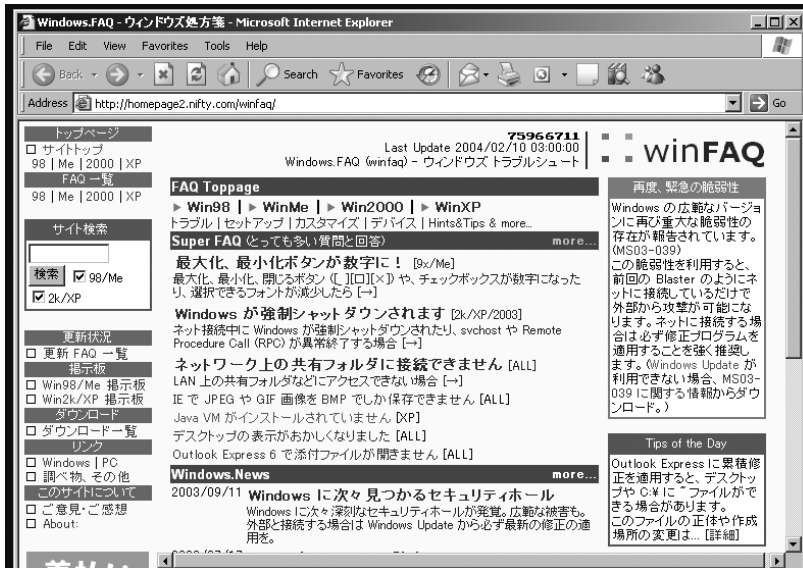
- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:

↓
Visual Studio 2005ベータ2
SQL Server 2005
Express Edition April CTP

アクセス権の操作

おそらく、ひとりしか使わないパーソナルコンピュータにはあまり関係がありませんが、ネットワークで利用したり、複数のユーザーが利用する環境では「アクセス権」という機能が必要になってきます。要するに、特定のファイルやレジストリといったリソース

図1: Windows.FAQ



しまった」となってからでは遅いのです。重要なファイルは、限られた人にしかアクセスできないように、また、限られた人にしか削除できないように、きちんと制限をかけなくてはなりません。

◎ アクセス権に関する機能

Windowsの「アクセス権」に関する機能はよくできていて、非常に細かい設定ができるようになってきました。ファイルのプロパティを開き、「セキュリティ」タブを見てみましょう。おっと、環境によっては、この「セキュリティ」タブが表示されない場合があるようです。私の環境（Windows XP Professional SP2）でも表示されませんでした。

Windowsを利用している上で何か困ったことがあるときは、もちろんヘルプやKnowledge Baseを参照するのが王道ですが、あまたあるインターネットサイトにその解決方法を求めるのもひとつの手です。図1の「Windows.FAQ -

ウィンドウズ処方箋（<http://winfaq.jp/>）」も、そのような困りごとを解決するサイトのひとつで、今回の問題も紹介されていました。

- Windows XPのフォルダのプロパティに「セキュリティ」タブがありません

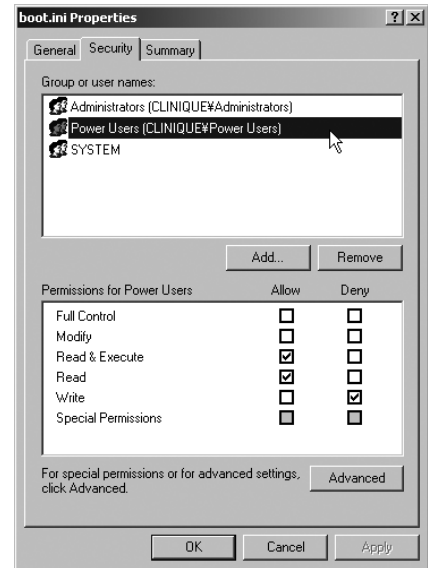
<http://homepage2.nifty.com/winfaq/wxp/hints.html#741>

というのがそれです。そもそもNTFSでフォーマットされたドライブでないと、セキュリティに関する機能は利用できません。また、簡易ファイル共有が有効になっていると、この「セキュリティ」タブは表示されないとのこと。Win

表1: .NET Framework 2.0で扱えるリソース

暗号化キー	System.Security.AccessControl.CryptoKeySecurity
待機ハンドル	System.Security.AccessControl.EventWaitHandleSecurity
ファイルシステム	System.Security.AccessControl.FileSystemSecurity
ミューテックス	System.Security.AccessControl.MutexSecurity
レジストリ	System.Security.AccessControl.RegistrySecurity
セマフォ	System.Security.AccessControl.SemaphoreSecurity

図2: 「セキュリティ」タブ



dows XPでは、デフォルトで簡易共有が有効になっているので、「フォルダオプション」から「表示」タブの「簡易ファイルの共有を使用する（推奨）」のチェックをはずしておきましょう。

さて、これでセキュリティに関する表示が現われるようになりました（図2）。ファイルのプロパティを開き、「セキュリティ」タブを見ると、ユーザーアカウントが上段に表示され、下のほうには各ユーザーに対して与えられている権限が表示されています。

.NET Framework 2.0のACL関連の機能では、表1のリソースについてアクセス権を設定することができます。とはいっても、ファイルシステム（ファ